

# サステナブルファイナンス ～日本の動向～



2009年11月6日

(株)大和総研 経営戦略研究部長  
社会的責任投資フォーラム代表理事  
河口真理子

# 日本のサステナブルファイナンスの短い歴史

- 1999年エコファンドがその嚆矢。金融における初の環境対策商品として注目される。その後エコファンド、SRIファンド(いわゆる公募型投資信託)は、投資信託の品揃えの一環、金融機関のCSRの一環として、設定は増加。(最近ではエコREITも)
- 2004年以降融資でも、DBJ環境配慮型融資制度など、融資にもエコの考え方が広がる。(DBJ 176件2500億円)
- 2005年以降メガバンクのエコファイナンスも本格化。
- その間、地銀などによる様々なエコ配慮ローン、損保のエコ配慮型保険などの開発が行われる。
- 2009年11月大和証券が初のマイクロファイナンスbond発売。
  
- しかし、金融にとって、いまだに環境は、「ひとごと」・おまけ。本質的要素として取り組むメインストリームの金融機関は、ない。
  
- → 根本的な問題点:なぜこの委員会を環境省が主催しているのか？

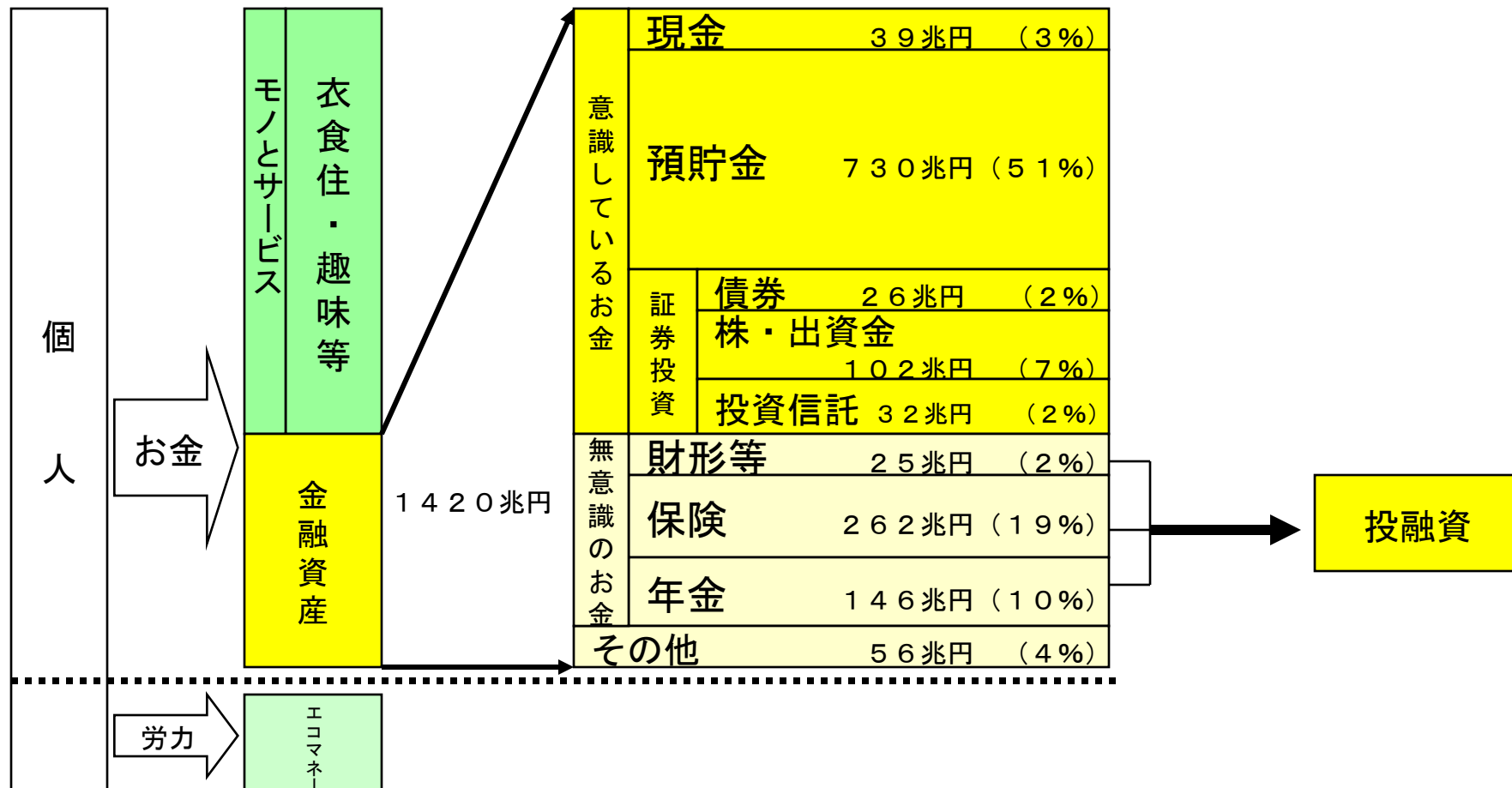
# 一方で市民セクターの動き

- 1960年 日本共助組合 (Japan Credit Union) 設立
- 1969年 岩手県消費者信用生活協同組合 設立 (多重債務者救済)
- 1989 初の市民バンク設立 (信用組合の資金の一部を社会的事業に融資)
- 1994 未来バンク設立 (出資者の出資資金を社会・環境事業に融資)
- 2001年初の市民出資型事業の市民風車「はまかぜちゃん」再生可能エネルギー事業はじまる。～2008年までに市民風車11機 (3600人が出資21億円弱) 市民出資型では「おひさまファンド」が総額7億円弱。
- ネットを通じて出資者をつのるミュージックセキュリティなど、市民出資の形態広がる。同社はマイクロファイナンスの事業の出資も支援。
- ・・・オカネで、社会的に意義の高い事業に参画、あるいは社会貢献をしたという市民意識が芽生え始める。。。

# 「環」の暮らし会議」2002.5レジメより

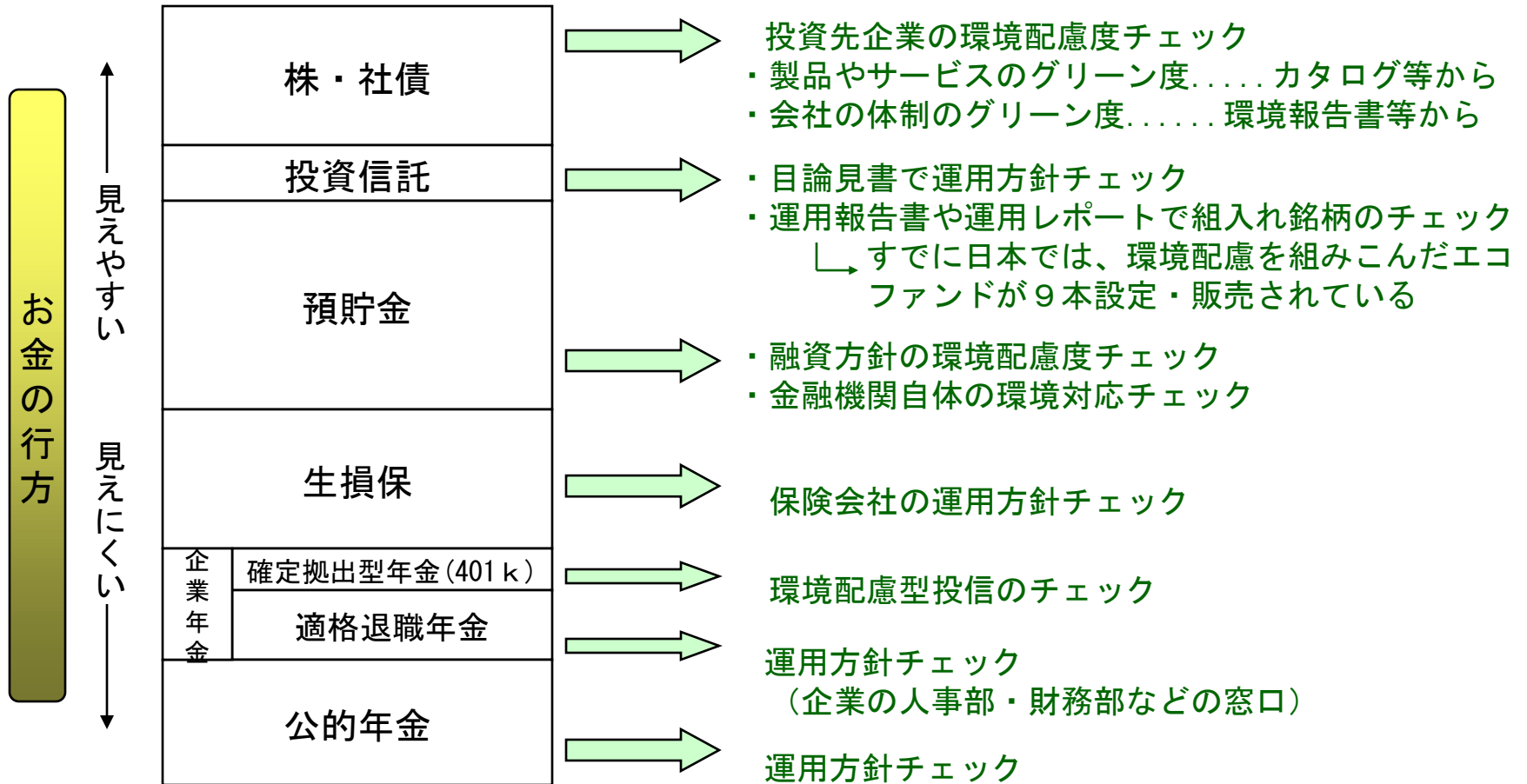
・・当時から、事態は本質的にまだあまり  
 変わっていない。

あなたのお金の使い道

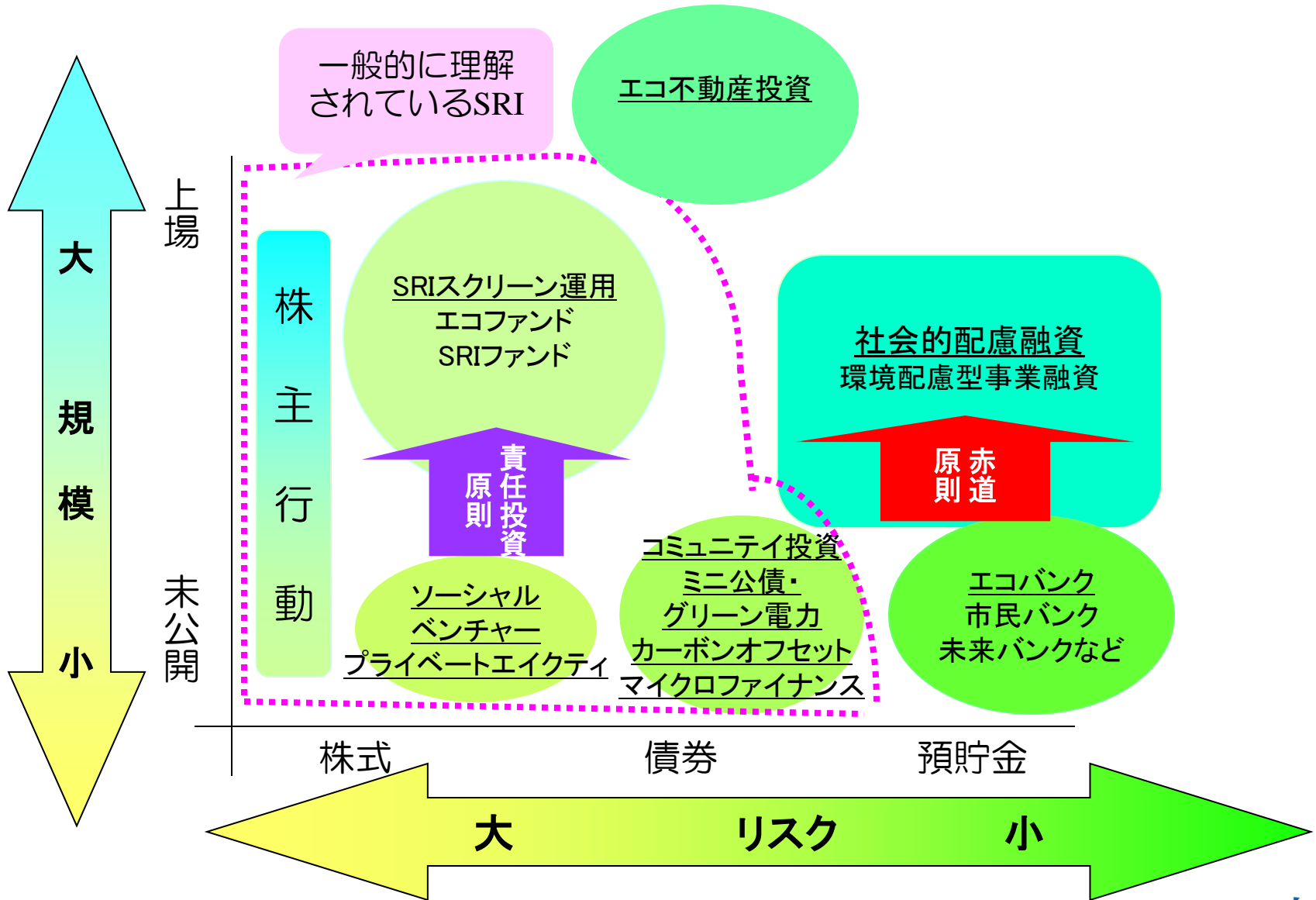


出典) 日銀統計 (2001年) より

# 4.あなたのお金に環境配慮の視点を！



# 社会性に配慮した金融(イメージ)

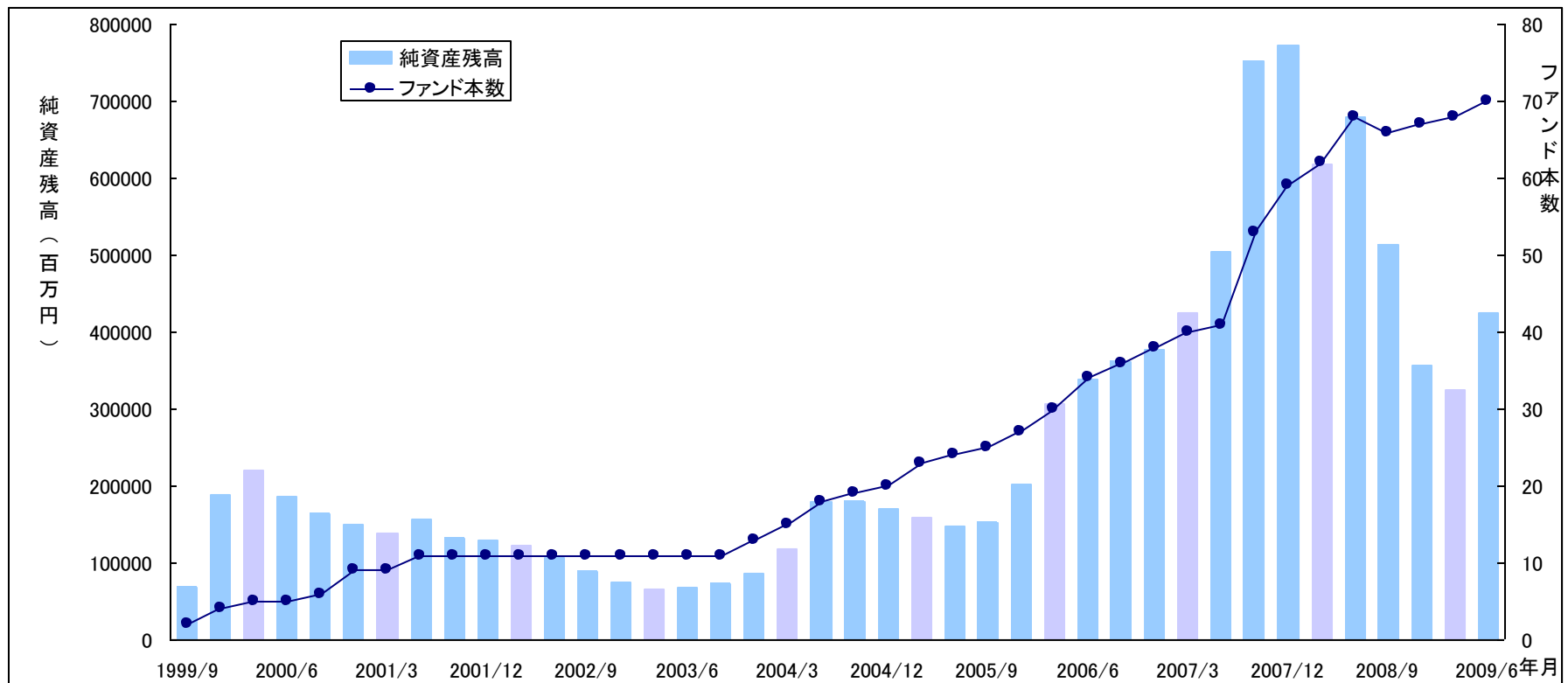


# 日本のSRI市場の状況

基本的に個人投資家むけ投信中心。

2007年末8千億弱から09年3月3千億円程度に減少、しかし6月には4千億を越える。ファンド数は増加傾向)

金額は、欧米にくらべて2桁小さい。



プラス企業年金むけが  
約1000億円(07年末レベル)

# 本格的なサステナブルファナンスのために何が 必要か？

## □ 社会的インフラとしての金融哲学の確立。

→金融教育の重要性は叫ばれるが、テクニカルな金融知識の普及のまえに、『金融哲学』の共有が不可欠。

日本では、金融関係者においても金融哲学が欠如！！→ましてや一般社会においては。。金融は金融資産の運用管理のための単なるツール。

→必要な金融哲学

「自分のリターンのためであっても、金融資産を動かす・運用することは、直接・間接に社会に実質的な影響を与える。資金の所有者は、運用の社会的影響について、社会的責任がある」

## □ 社会的責任の大きな公的資金が哲学に基づいた運用を。

・・・公的年金のコミットメントが必要。

・・・PRIに日本の公的年金はまだ署名していない。韓国の政府系年金基金はすでに署名。先行されたのは欧米だけではない。

・・・融資に関しても公的機関の融資(DBJなど)のサステナブルファイナンスの割合を積極化すべき。

## □ 投資融資判断にESGを組み込むサステナブルファイナンスの考え方は汎用性高い。

・・・上場株式、大型融資案件、個人むけローン、個人向け保険商品のみに限らない。

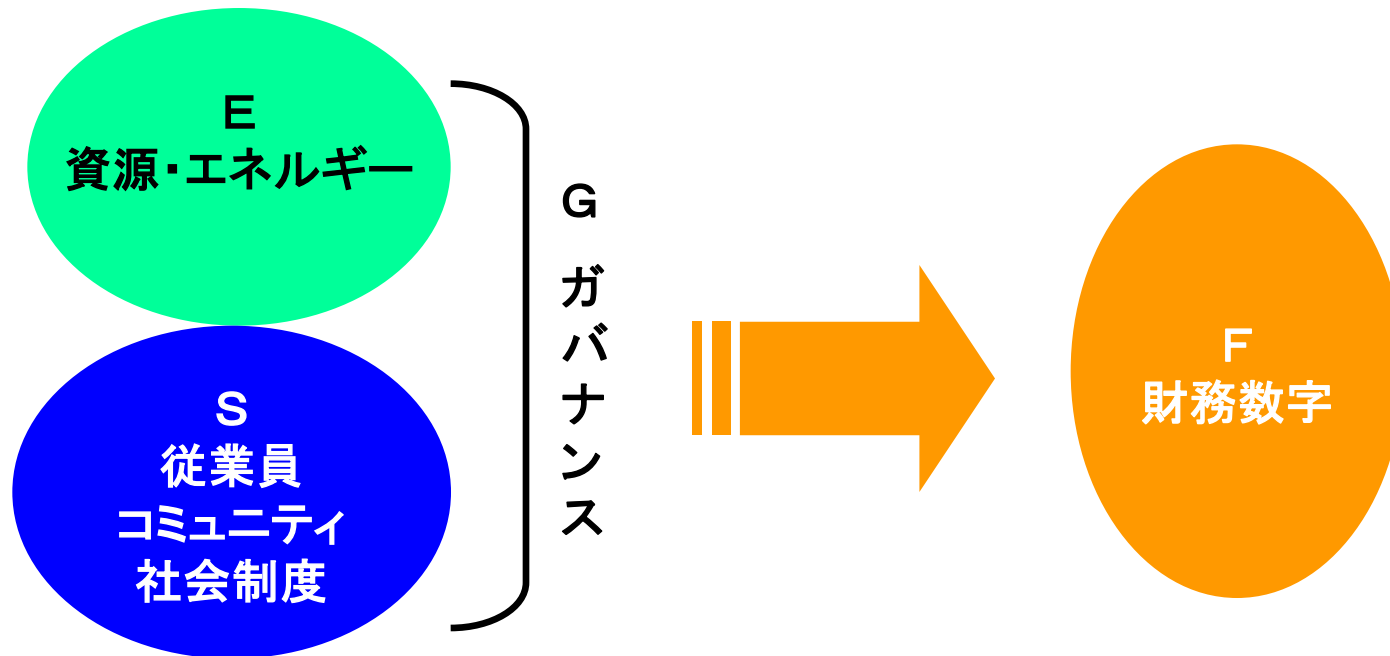
・・・債券、海外株式、不動産、森林などの実物資産、未公開株式などでの可能。

融資でも、市民バンクやマイクロファイナンスなど応用分野は広い



# サステナブルファイナンス浸透のために

- 融資、投資、保険とあらゆる分野にESGの考え方を導入することは可能。
- なぜならば、



- 融資(メガバンク)に赤道原則、投資(公的年金)にPRI署名を。
- 地銀や信用金庫などの地域金融機関には、地域の環境・コミュニティを。

ご清聴ありがとうございました